

全国新酒鑑評会について

品質・安全性研究部門 藤井 力

1. はじめに

全国新酒鑑評会は、その年に製造された清酒を全国的に調査研究することにより、製造技術と酒質の現状及び動向を明らかにし、もって清酒の品質及び製造技術の向上に資するとともに、国民の清酒に対する認識を高めることを目的に実施しています。明治44年に始まったこの鑑評会は今年104回目を迎えました。

平成27酒造年度全国新酒鑑評会の結果と昨年の製造技術研究会で実施したアンケート結果について紹介します。

2. 平成27酒造年度新酒鑑評会の結果について

(1) 出品点数

酒造年度(平成)	22	23	24	25	26	27
出品点数	875	876	864	845	852	854

(2) 出品酒の成分値(平均の推移)

酒造年度(平成)	22	23	24	25	26	27
アルコール分(%)	17.6	17.6	17.6	17.6	17.6	
日本酒度	3.6	3.3	3.1	2.7	2.3	
酸度	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	

(3) 指摘項目の使用頻度の推移

酒造年度(平成)	22	23	24	25	26	27
酢酸イソアミル	784	729	814	671	668	
カプロン酸エチル	2749	3547	2850	3457	3330	
酢酸エチル	478	444	657	279	478	
高級アルコール	511	413	560	478	435	
アセトアルデヒド	912	832	955	700	832	
イソバレルアルデヒド	404	319	431	235	240	
生老香	596	450	437	339	478	
紙・ほこり臭	523	515	800	558	476	
脂肪酸	759	881	1250	784	1048	
カビ臭	288	328	295	241	199	

3. 平成26酒造年度全国新酒鑑評会製造技術研究会のアンケート結果について

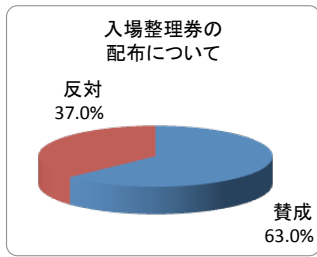
酒類製造関係者が出品酒をきき酒し、醸造技術や品質設計について自ら検討・研究することにより、清酒の製造技術や品質の向上に資することを目的として、製造技術研究会を開催しています。

これまでもアンケートを実施し、毎年改善を図ってまいりましたが、残った課題は簡単な解決が難しく、昨年はその対応策についてご意見を伺いました。主な結果について紹介いたします。

<入場整理券の配付について>

(アンケート文面)

現在、開場まで多くの方が並ばれている状況ですが、入場整理券を配付すれば並ぶ必要はなくなります。入場整理券の配付についてどうお考えですか。



(主な反対の理由)

- ・入場整理券の入手が大変（並ぶ）。
- ・実施方法がはっきりしない。（配付時間等不明）
- ・公平感がない。
- ・所定の時間に来ないとトラブルの元になる。並ぶ時間がさらに早くなる。
- ・他の対策を望む（会場を変える、酒を増やす）など。

<入場者数と酒の本数のアンバランスについて>

(アンケート文面)

現在は多数の方が参加されるため、一部のお酒については、早い時間になくなる状況です。改善するためには、出品本数の増加や入場制限が必要となります。

(1) 10本出品していただいておりますが、出品本数増加についてどうお考えですか。

- 12本とする
- 13本以上とする
- 反対（理由：.....）

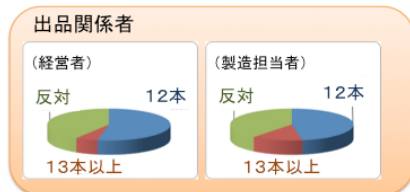
(2) 製造技術研究会の入場制限を行うことについてどうお考えですか。

- 賛成
- 反対（理由：.....）

(3) 上記(2)の質問で、「賛成する」と回答された方は、具体的に方法をお答えください。

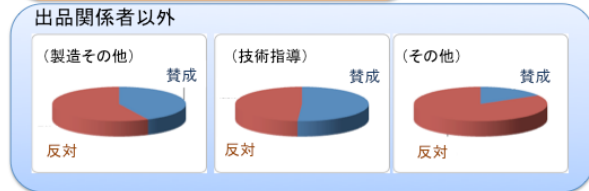
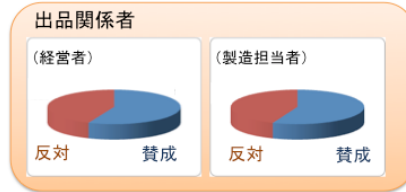
(例) 午前中は1出品者から2名のみ入場とし、それ以外は午後からの入場とする。

(出品本数の増加について)



出品関係者は反対意見が多く、13本以上の案には特に経営者からの反対意見が多い。出品関係者以外では大幅な出品本数増を希望する割合が多い。

(入場制限について)



出品関係者には反対意見もあるが、制限やむなしの意見が半数以上。出品関係者以外では、技術指導を除いて、反対意見が半数以上。

日本酒造組合中央会とも協議の上、平成 27 酒造年度全国新酒鑑評会では、入場整理券の配布や出品本数の変更は行わず、製造技術研究会の待ち列を体育館内に設置するとともに、一人でも多くの方にきき酒いただけるよう、スポイトの容量を少なくすることとしました。今後も引き続き改善策を検討します。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。